

事業所名

仙台市田子西たんぼぼホーム

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和8年

3月

19日

| | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|--|-----|-----|---------|---------|--|----|--|
| 法人（事業所）理念 | | 一人ひとりがあるのままで受け入れられ、安心して暮らせる地域社会を目指します。「私たちは、この街に初めて灯された希望の「灯」であることを忘れない。どんな重い障害があっても、誰もが「私の居場所はここにある」と心から思えるように。「ありのまま」を「はげみ」を未来へとつなぎ、共に歩む。 | | | | | | | |
| 支援方針 | | 身近な地域で必要な時期にタイムリーに通える場を保証します。 保護者のさまざまな不安に寄り添い一緒に手立てを考えます。 こども一人ひとりの特性を理解し分かりやすい環境の中でのびのびと生活できる基盤をつくります。 | | | | | | | |
| 営業時間 | | 8時 | 30分 | 17時 | 00分 | 送迎実施の有無 | あり | なし | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 健康な生活リズムをつくる 基本的な生活習慣に取り組む。 | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | 身体を動かす楽しさを味わう。 ・見る、聞く、触る等の経験を通して様々な感覚を感じる。 ・身体を使ったあそびを通して、基本的な運動能力を養う機会を取り入れる。 ・様々な素材を準備し、指先を使ったあそびを一人ひとりのペースで楽しめるように配慮する。 | | | | | | | |
| | 認知・行動 | 視覚的な要素を取り入れ、こどもが自発的に取り組めるようにする。 ・目で見て分かる工夫や特性に合わせた環境の工夫（視覚的、物理的構造化）、実物や写真の提示などを行い、取り組みやすい環境の工夫と見通しをもって活動に参加できるようにする。 | | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | あそびを通してコミュニケーションの力を育み、ことば、身振り等で意思を伝える。 ・言葉だけでなく、身振りや視線にも注目し、興味関心を探りながら関わり、タイミングよく声をかけ、気持ちを受け止めて簡単明瞭なことばで伝えていく。 ・指差し、身振り、サイン等を用いて環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。 | | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | 安心できる環境の下、身近な人と共に過ごす楽しさを感じる 集団で生活における基本的なルールを経験する。 ・身近な大人を抛り所にして、集団の中で安心して過ごす。 ・少人数のグループ（発達や年齢に考慮）の中で周りの動きに合わせて動く、順番を待つ等、自ら入りたくなるような環境を整える。 | | | | | | | |
| 家族支援 | | <ul style="list-style-type: none"> ・子育てへの不安や困難を抱えている保護者に対し、親子通園で日常場面を共有しながら、特性に合わせた関わりや環境調整等を一緒に考え、家庭でも育児の工夫ができるよう支援します。 ・専門家や当事者、先輩保護者の様々な話を聞くことで子育てについての知識・情報や将来の見通しを得られます。 ・こどもの見方や具体的なほめ方を学ぶペアレントトレーニングや関わり工夫や発達及び特性について体系的に学ぶ保護者勉強会を継続して行い、保護者のこどもへの理解とより良い子育てにつなげます。 ・保護者同士でグループワークをすることで他者の意見を聞き、気付き、振り返りにつなげていきます。 ・先輩保護者と相談をする機会を作ることで、思いを共感させる場の保証をし、自らの意思で決定・行動し、自己実現できるように支援します。 ・虐待が疑われる家庭など個別の配慮が必要なケースについては、各関係機関との連携を強化し、より良い支援につなげていきます。 ・家族それぞれが安心して過ごせるよう、きょうだい支援、一時預かり等も行います。 | | | 移行支援 | | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者がこどもに合わせた進路先を選択できるように、進路勉強会、施設見学、先輩保護者の体験談を聞く勉強会、面談を行っていきます。 ・卒園が決まったこどもについては、関わり方の手立てになるような「移行支援シート」を保護者と一緒に作成し、スムーズに移行できるよう丁寧な引き継ぎを行います。 ・次集団への入園後、数か月経過した頃に進路先でのこどもの様子を確認し、必要に応じて先生や保護者の方と対応について一緒に考えていきます。 ・卒園後1年間は定期的に保護者会を開催し、情報交換や相談のほか、就学に向けた勉強会を行っていきます。 | | |
| 地域支援・地域連携 | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域相談員を中心に、児童館やのびすく等の地域の子育て支援機関と連携し、発達相談の窓口として早期に関わり、地域の保護者支援を行います。 ・卒園後1年間は定期的に保護者会を開催したり、幼稚園・保育園・こども園職員のための研修会、施設訪問支援を行ったりするほか、児童発達支援事業所との関係づくりを進め、センターが支援について助言を行っていき、地域における支援の核となるための取り組みを充実させます。 ・アーチルに来所して、遅れや特性について伝えられてまもなく、幼稚園・保育所・こども園に在籍している保護者を対象に行う初期支援プログラムや、子育てに不安を抱えた未就学児の保護者に向けてペアレント・プログラムを市内の児童発達支援センターが南北にわかれて実施します。 ・地域の中核としてインクルージョンを推進する役割や関係機関に向けた助言をしていくスーパーバイズの役割を担っていくことを視野にいれていく中で、地域の児童館やこども園、保育園等と交流の機会をもつていきます。 ・幼稚園、保育所、こども園に在籍のあるこどもに対しても支援が届くよう、地域に出向いて行き支援を充実させていきます。 | | | 職員の質の向上 | | <ul style="list-style-type: none"> ・職員が継続して勤務し定着を図れるように、また職員の専門性の向上を目指して身に付けてほしい力を段階的に示し、自分の階層や、どのような働き方をしたら良いかを提示していきます。 ・新任職員、初任職員に対してOJT担当の職員（指導係・メンター）をおき、定期的に見直しを行いながら職員の定着と育成に取り組んでいきます。 ・職員それぞれのスキルアップを目指した研修制度を充実させていきます。 ・職員の自主的な学びについての機会を得るために研究会を立ち上げ、テーマに沿った能動的な学びの場を保障していきます。 ・職員の人事評価制度も見直しを図り、自己評価の視点ももたながら業務を評価していきます。 ・具体的な対応方法等を記した支援マニュアルをもとに、同じ方向性をもって支援ができるよう支援の質を担保しています。 | | |
| 主な行事等 | | はじまりの会・たんぼぼまつり・家族参観・遠足・おたのしみ会・おわかれ会・誕生会・グループワーク（保護者交流会）・内科健診・歯科健診・家庭訪問・避難訓練 | | | | | | | |